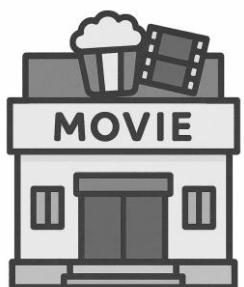


ひとりうち法話

宝林宝樹

(52)



最近『国宝』という映画が話題になりました。日本映画の実写版作品としては久々の大ヒットだそうです。その映画とは何の関係もありませんが、「国宝」という思い出す、親鸞聖人も若い頃学んでおられた天台宗の開祖最澄（伝教大師）の言葉があります。

「國宝とは何物ぞ、宝とは道心なり。道心ある人を名づけて國宝となす。故に古人の曰く、徑寸十枚國宝にあらず、一隅を照らす、これ國宝なり」（『山家学生式』）というものです。

「道心」とはさとりを求める心であり、つまり仏教者を國宝としているのですが（一方の径寸とは錢金・財宝を指すが、それは宝などではない）、それは何故か？世界の片隅（一隅）を照らすからである、と言つていることになります。この言葉にふさわしい僧侶や仏教者がいるのかという疑問もおこりそうですが、例えば私達の称える「南無阿弥陀仏」のお念佛の輪が広がることにより、阿弥陀如来の「救いの心」が称える一人ひとりを照らすということが、まさにこれに符号しているといえないのでしょうか。

私達凡夫が輝ける「お念佛のこころ」の大切さを感じさせてくれる言葉です。